

今回、永地先生が勤務されている御所市立大正小学校で第6回奈良便教会を開催させていただきました。私の今があるのは永地先生のおかげです。そんな開催で感謝の気持ちでいっぱいでした。

今回は「なかよしの掃除に学ぶ会」の羽根さんとの合同で開催になりました。教員7名、掃除の会の方々10名、児童3名の計20名。遠く京都の掃除に学ぶ会からもかけつけてくださり、新しいご縁もいただきました。校長先生も参加してくださいました。開催にあたり、便教会の話をしたところ、迷いなく承諾してくださったこともお聞きしました。その上参加され、ひたむきに心磨きされる姿には、学校と



いう場の先頭に立っておられる人が自ら体感し、伝えていくことを学ばせていただいたように思います。

前回まで5回と積み重ねてはきていますが、私自身リーダーとしての進め方や姿勢に、難しさやもどかしさを感じていました。初めてされる方が多い中、リーダー次第、進め方次第でトイレ掃除に対する感じ方・受け取り方に大きな違いが出るのではないかと感じていました。参加者が自ら感じるがままでいいとは思いますが、やはり進める中で「よかった」と思える時間にしたいと思う気持ちが強くなっていました。そんな中、今回はリーダー羽根さんの姿勢から学ばせてもらいたい思いが強くなりました。

【気配り・こころ遣い】

大谷先生からのメールで「行為の意味」という詩の原文が紹介されていました。

その中に、「こころ」はだれにも見えない。でも「こころづかい」はだれにでも見える。
胸の中の「思い」は見えない。でも「思いやり」はだれにでも見える。

まさに今までの自分は、「こころ」「思い」で「こころづかい」「思いやり」に出来ていなかったなあと感じました。羽根さんの一つ一つから学ばせていただいていると、気づきを自分の行動へ、またリーダーとして参加者一人一人に気配りをされていました。声をかけられるタイミングも一番良いときのように感じ、どうすればいいか、答えを教えるのではなく、答えに近づく視点のようなものを伝えておられたように感じます。「ハイっ!」という返事が返ってきていました。見る視点を変えて臨めたことで気づいたことでした。



交流会から二つ心に残ったことがあります。

一つは参加者の校長先生がおっしゃっていた言葉です。「今日をきっかけに大正小学校を掃除の出来る大正小学校にしていきたいと思います。」4月に転勤されて校長になられたところのようですが、その力強いお言葉に感動しました。それは今回自ら参加したことでの感じたことや気づいたことがあるからではないかと感想から感じました。見本となり、引っぱっていく私たち教師自身が想いをもって取り組んでいくことが大きな一歩になるだろうと思いました。

もう一つは、「掃除ってすごいね」という感想です。10年以上続けておられる方がおっしゃっていました。「何がすごいかは分からないけど、掃除ってすごい」そこに、何がすごいという理由は大きなものではないんだと改めて思いました。すごいから遠い昔から掃除をされている。始められ、掃除には何かしらの力があるから今でも続けていられている。それはきっとこれからも同じだろうと思います。それを聞き、私自身も掃除には何か力があると思います。どんな力？と聞かれると、分かりません。でも掃除の大切さは感じます。羽根さんが最後に「みなさん続けましょうね」とおっしゃいました。私に向けての温かい言葉のように感じました。支えてくださる方々がおられるので、前進できる。掃除の力や大切さ、その奥深さを追い求めながらこれからも続けていくんだらうなあと思います。ありがとうございます。



奈良便教会 小峠大地